

令和4年度 武蔵野市地域自立支援協議会全体会（第1回）

グループディスカッション ワークシート

グループ名： B

【テーマ】「武蔵野市における協議会の課題と目標
～5つの専門部会の活動報告を踏まえた今後の展望～」

ワーク1：「各部会の活動報告を受けて」

- ・地域生活支援拠点部会の活動について。緊急時対応とハイリスク支援を必要とする事例を抽出したのは、支援者としても、現状を知ることができたのでよい活動であったと思う。
- ・地域生活支援拠点部会について。訪問看護ステーションの方々、地域活動支援センターの方々、その他さまざまな事業所が意見を出し、協議できたことは、部会本来の活動ができたと思う。部会の活動が自立支援協議会の親会や行政に伝わることで、今後の支援に結びつくことが期待される。
- ・当事者部会の活動が活発であったことが印象的である。以前は各部会と共同で活動を行っていたこともあるが、次年度以降にまた再開できたらよい。当事者の方々の意見を活かしていくことが重要である。
- ・地域移行部会について。精神科病院に長期入院されている武蔵野市民の実態調査について、退院の意思がある方が少数であり、退院の意思について「わからない」と答えた方が過半数であった。地域の方々からの働きかけで退院を促すことが大切であると感じた。
- ・コロナ対応部会の成果物である事例集が興味深い。グループホームで勤務しており、感染拡大を防止することが大変な場であると感じている。今後も感染予防に努めていかなければならないので、コロナ対応部会の事例集を参考にしたい。
- ・差別解消部会について。差別解消部会は、バスの運転手との関わりについて活動した。バスの利用時に障害者手帳を提示していないのにも関わらず割引を求められることもあるなど、トラブルが発生する事例があることもわかった。そうした事例を通じてなど、啓発を行っていくことで障害者に対する接し方や対応について理解を深めていただくことも重要である。

ワーク2：「今後の協議会活動に向けて（課題と目標）」

ワーク1を踏まえ、今後本協議会が取り組むべき課題と目標などを意見交換する

- ・今年度は、どの部会もアンケートについて重視していた。アンケートで集めることができた情報や成果を活かして、今後の協議会活動をどのように進めていくかが求められる。また、ピアの活動を積極的に活用していくことも重要である。
- ・具体的なアンケート結果の情報をもとに、具体的なアクションプランを作成していくことが大切である。
- ・以前まであった相談支援連絡会を再開できるとよい。集まった人々の意見を行政に伝える機会が減ってきていると感じる。
- ・コロナ対応部会について、今後は災害対策部会といった部会に変更していくのはどうか。
- ・差別解消部会について、当事者部会とのふれあいカフェや、オンラインだけでなく地域の方々と対面で交流できる場を再開できるとよいと思う。

- ・当事者の方々の声を吸い上げて啓発につなげていくことが大切となる。地域移行部会では当事者の意見を吸い上げることを課題としており、その通りだと思う。
- ・自立支援協議会の各部会のなかで、根幹となる部会はどこかとなった際に、地域生活支援拠点部会が中心になってくると思う。
- ・個人的に、部会での活動の内容が行政に伝わっていない部分があると感じている。地域課題を行政と共有していくことは大切である。
- ・地域生活支援拠点部会の5つの機能を強化してだけで、5つの部会を作ることでもできると感じている。拠点事業は核となるものであり、部会の構成も地域生活支援拠点部会を参考にするのもよいと思う。
- ・次の部会の構成にもよるが、今回の部会で得られたものを今後の協議会活動にどのように引き継ぐか、丁寧に進めていくべきである。
- ・先進的な試み（今までにないアプローチ方法、法律から少し広げた試み、予算等）の支援をしてほしい。こういった部分に予算が必要か、明確にできるとよい。
- ・今回の活動で知ることができた現状を、武蔵野市ではどうするか、武蔵野市ならではの、武蔵野市独自のといった視点で進めていくのはどうか。